

| | |
|------------------|---|
| Title | 子会社・関連会社に対する経営政策の一考察 |
| Sub Title | |
| Author | 内藤達也(Naitou, Tatsuya) 関谷章 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1991 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1991年度経営学 第861号 複写許諾が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0861 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 内藤 達也 主査 関谷 章
(積水化学工業株式会社) 副査 古川 公成
滝沢 茂
所属 関谷 章 研究室

子会社・関連会社に対する経営政策の一考察

子会社・関連会社に対するマネジメントのあり方については、種々興味深い問題がある。

M工業は子会社・関連会社をグループの中に180社持ち、またとない題材を提供してくれる。

本論文においては、M工業グループの子会社・関連会社について事例研究することによって、それらに対する経営政策のあり方を探ろうとするものである。

分析の手法として、S. ビーアの「生存可能システム・モデル」を用いた。

結論としては、組織における構造上の欠陥が、種々の経営的問題につながるということがわかった。そして、その診断の道具として「生存可能システム・モデル」が有効であることがわかった。